

浮田森うきたのもり

〔むかし此辺にありと見えたり。大荒木あらかきの杜もり注連縄など詠合せし和歌多し、後人考あるべし〕

続 古 かくしつゝさてややみなん大あらしきの浮田うきたの杜もりのしめならなくに 人 丸

金 葉 あふことのなきを浮田の森に住むよぶこ鳥こそ我身なりけれ 為 実

新後撰 行雲のうき田のもりのむら時雨過ぬと見れば紅葉してけり 兼 氏

続 千 下草はうゑぬにしげる大あらしきの杜うきたの浮田うきたに早苗とるなり 津 守 国 道